

## 令和5年第2回美浜町議会定例会

(令和5年3月9日開議)

### 町長就任のあいさつ

本日ここに令和5年第2回美浜町議会定例会を開催いたしましたところ、議員各位におかれましては、お忙しい中、お繰り合わせご出席を賜り開会の運びとなりましたことに対し、心より厚く御礼申し上げます。

開議に先立ちまして、就任のごあいさつの機会を与えていただき感謝申し上げます。

去る2月21日に告示されました美浜町長選挙におきまして、町民の皆様からのご信託を受け、引き続き町政を担わせていただくこととなりました。大変光栄なことであるとともに、課せられた使命と責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

こうした町民の皆様のお気持ちに甘んじることなく、これからも議会の皆様はじめ、お一人おひとりの声をしっかりと受け止め、協働によるまちづくりを進めてまいりたいと考えています。

我が美浜町は、昭和29年に4村の合併により誕生し、今年度、町制70周年を迎える伝統ある町であります。また、心豊かな人情あふれる人が集い、町名の如く美しい海浜や名勝三方五湖など豊かな自然があふれる、そんな美浜町が大好きであり、住んでいることに幸せと誇りを感じています。

しかしながら、人口減少や少子高齢化が進む中、地域コミュニティや地域活力の減退が懸念されており、長期化するコロナ禍が更に追い打ちをかけようとしています。

さらに、町の自然と経済を育む農林水産業や商工業は、将来展望をしっかりと

見据えた持続的で活力ある産業への展開が必要となっています。

とりわけ、豊かな自然を活かした観光は、手詰まりの状況にありましたが、目前に迫る好機を捉え活性化に繋げるべく対応が急務となっています。

また、国のエネルギー政策は、GXの実現に向け、抜本的な議論が進んでおり、原子力政策に係る将来展望も大きく変わろうとしています。

このように、刻々と変わりつつある社会情勢をしっかりと捉えながら、一歩ずつではありますが、まちづくりを進めてまいりました。

「百年に一度の好機」となる北陸新幹線敦賀開業を見据えた観光地の魅力アップに向け、レインボーライン山頂山麓公園はじめ電池推進遊覧船やレイクセンターの整備などを進めてまいりましたが、この4月にほぼ全ての施設が完成いたします。

また、美浜駅から「なびあす」までの一帯を、誰もが楽しく集う交流エリアとして、「にぎわいゾーン」と位置づけ、美浜駅舎や駅前広場のリニューアル、道の駅「はまびより」やイチゴ観光農園の整備、更には関連事業となる国道27号や県道駅前線の道路改良、町道駅前線の新設などにも取り組んでおり、6月の「はまびより」の開業をもって、一部を除き完成の予定となっています。

また、全国初の40年超運転となる美浜3号機の再稼働を見据え、安全安心の確保に向けた防災情報伝達施設の全面更新と強靱化を図ったほか、持続的な農業の実現に向けた町独自の農業人材育成拠点施設を整備し、既に供用しています。

このほか、様々な施策を進めてまいりましたが、まちづくりを機動的に進めるためには、推進力となる強力な地域力や行政力が不可欠であり、その源泉となる「地域愛」の醸成が必要であると考えています。

ここ数年、町の将来を担う子どもたちが、探求を重ね、まちづくりを提案する「ふるさと美浜元気プロジェクト」が動き出すとともに、集落組織の法人化による持続可能な地域づくりが始動するなど、「地域愛」あふれる活動の輪が広がり始めています。

この4年間で、まちづくりのベースとなるものが整いつつあると実感しており、

これもひとえに、施策の推進にご理解とご協力をいただいた議会や町民の皆様、職員の皆様のお陰と深く感謝する次第であります。

2期目にあたり、まちづくりの方向性は、これまで同様「住んでいることに幸せと誇りを実感できるまちづくり」「夢と希望、活気あふれる産業を育むまちづくり」「誰もが訪れたくなる 住んでみたくなる 応援したくなるまちづくり」の3つの柱といたします。

そして、このまちづくり3つの柱を念頭に、これまで皆さんと共に積み上げてきた成果を余すことなく活かし、行政と町民が共に手を携えながら、「<sup>うまし</sup>美し美浜」の実現に向け、「地域愛あふれる豊かなまちづくり」に誠心誠意、一生懸命に取り組んでいく所存であります。

本日は、議会運営委員会等の構成が行われるとお聞きしておりますので、議案を上程させていただく際に、改めて私の所信を申し述べさせていただきたいと存じます。

以上、誠に簡単ではございますが、町長就任のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。